

胃がん検診受診の際のご注意

事故防止のため、次の項目に該当する方は、受診をお断りすることがあります。
安全な検診を実施するために、何卒ご理解くださるようお願いいたします。

1 検査当日、体調の悪い方

- ・ 頭痛、腹痛、体がだるい、吐き気があるなど

2 体調不良を起こすおそれが高い方

- ・ バリウム検査でアレルギー（血圧低下、発汗、発疹、悪心嘔吐など）や体調不良をおこしたことがある
- ・ 胃や腸の病気で治療中や経過観察中である
- ・ メニエール病、脳室シャントの既往がある

3 脳卒中や心筋梗塞などの重篤な病気をまねくおそれが高い方

- ・ 当日の血圧が上180mmHg以上または下110mmHg以上と著しく高い
 - ・ 1年以内に発作（脳梗塞・くも膜下出血・脳出血・心筋梗塞・狭心症・不整脈）を起こしたことがある
- ※ 発作後1年以上で通院中の方は主治医の許可が必要です

4 バリウムが気管へ入ってしまい呼吸困難・肺炎をおこすおそれが高い方

- ・ 過去の検査でバリウムを誤嚥（誤って気管へ入ること）したことがある
- ・ 脳血管障害などで嚥下障害がある
- ・ 酸素吸入療法をしている

5 バリウムが腸につまりやすい方（腸閉塞をまねくおそれが高い方）

- ・ ひどい便秘症（検査日を含まず3日間排便が無い）
- ・ 腸閉塞・腸捻転・大腸憩室の既往がある
- ・ 胃を全て切除している方や大腸・小腸の切除をしている
- ・ 開腹手術あるいは腹腔鏡手術を合計3回以上（帝王切開、虫垂炎なども含む）している
- ・ 透析治療中
- ・ 水分制限がある（心不全や腎不全）

6 撮影台からの転落のおそれがある、または撮影が困難な方

- ・ 手足に麻痺などがあり、検査のための体位変換（寝返りなど）がよくできない
- ・ 認知症などで、指示通りに動くことが困難である
- ・ 体重が130kg以上ある

7 重い持病がある方

- ・ 重症な心疾患、重症な肺疾患、状態が不安定な糖尿病など

8 妊娠中または妊娠していると思われる方

9 1年以内に手術した方（胃、腸、頭頸部、心臓、大動脈、肺、脊椎、腕、脚など）

- ※ 手術後1年以上で通院中の方は主治医の許可が必要です

結果が毎回、『精密検査』に該当している方、または、自覚症状のある方は医療機関での検査をお勧めします

裏面もお読みください

● 飲食・薬の使用などについての注意事項

1 検診前夜

- ① 午後8時ごろまでに食事を摂り、それ以降の食事はしないで下さい。
- ② 飲水については、深夜0時頃まではかまいません。特に、熱中症や脱水症が起きやすい夏季には積極的に飲水して下さい。
- ③ 飲酒はなるべく避け、早めに就寝しましょう。
- ④ 入れ歯安定剤は、検診前夜から使用しないで下さい。

2 検診当日 食事をされた場合、検査は受けられません

- ① 起床後は、検診が終了するまで、水以外の摂取は避けて下さい。
- ② 服薬のための飲水は、コップ1杯（200ml）程度であれば問題ありません。常用しているお薬の服用については、下表を参考にしてください。

当日の使用	薬の種類	方 法
×	糖尿病薬 (血糖降下剤、インスリン)	絶対に使用しないで下さい。 (低血糖発作の危険があります)
○	その他の常用薬 (血圧・心臓の薬など)	血圧・心臓の薬は原則として服用して下さい。 起床直後、早めに服用して下さい。

- ③ 検診時の服装は、ボタン、刺繍^{ししゅう}、金具等のないものをお願いします。

● 授乳中の方へ

検診後に服用する下剤の影響で、乳児に下痢がみられる場合があります。服用後48時間以内は人工乳に切替えるか、検査前に搾乳しておくことをお勧めします。

● 胃がん検診（バリウム検査）について

この検診は、バリウムを使って胃の粘膜の状態を写し出し、病変の有無を検査するものです。

“胃がん”をはじめ、“胃潰瘍”や“ポリープ”などの疾患を見つけることができます。

なお、この方法では胃の粘膜に変化があらわれにくい癌や、病変が骨や十二指腸の影になる部分にあるときなどは見つけることが困難な場合があります。

この検査で「異常なし」と判定されても、病気を100%否定するものではありません。

*このリーフレットは『胃X線検診安全基準』（発行：日本消化器がん検診学会 関東甲信越支部）に基づき作成しています。